

07年に児童ら植えた1000本

大川小の木すっつきり

石巻・森林組合「大事に育てる」
下草刈り作業

東日本大震災の津波で、児童、教職員計84人が死亡、行方不明になっ

た石巻市大川小近くの市有林で25日、震災の4年前に子どもたちが植えたクリやコナラなどの樹木の下草刈りが行われた。

石巻地区森林組合（石巻市）が児童の遺族から要望を受け、ボランティアで実施。作業員5人が刈り払い機で大人の背丈以上に茂った草を刈り取

り、木に絡んだつるを取り除いた。

市有林は大川小の裏山に広がる。2007年3月と11月、当時の大川小中の児童生徒、住民らがケヤキやヤマザクラ、アオタモなどの苗木計約1000本を植樹した。その後、組合が毎年、付近の草を刈っていたが、昨

年は震災後の混乱で作業できず、雑草が生い茂っていた。

組合によると、ほとん

どの木は順調に生育しているという。組合総務課の山下耕一さん(39)は

「子どもを亡くした家族は木の成長を楽しみにしていると思う。今まで以上に大事に手入れをしていきたい」と話した。

6年生だった長男を亡くした母親は「息子が植えた木もきつとあると思う。いつか気持ちが悪く落ち着いたら、見に行きたい」と語った。



木に絡まったつるを丁寧に取り除く作業員